

学生アンケートの実施

文部科学省が指定したCOC事業採択校に対する統一指標に基づき、本学学生に対して2014年4月と2015年4月にアンケートを実施した。

なるべく多くの学生からアンケートを回収するために、年度初めに開催される各学部の学科ガイダンスの中の時間を使い、新2年生、新3年生、新4年生、新大学院生を対象に、事業概要を3分程度で説明し、設問の解説をしながら前年度の履修内容に関して回答してもらう方式でアンケートを実施している。

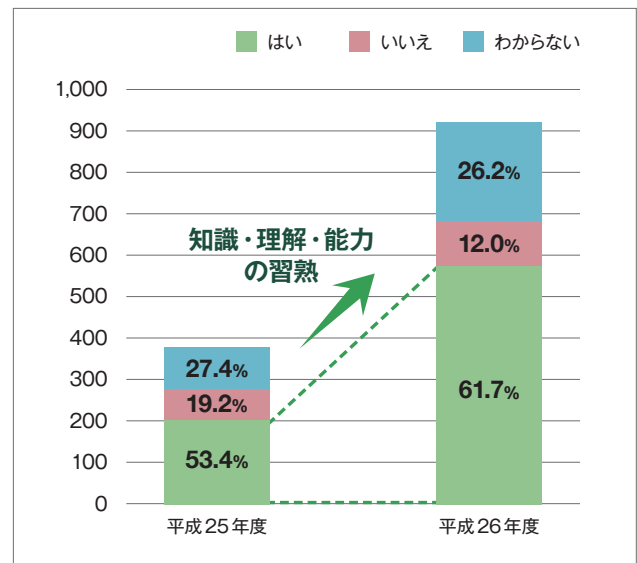
2015年度は、4月の学科ガイダンスでのアンケート実施に加えて、新しい試みとして年度末に、COCの演習・イベント・課外活動に参加した学生を対象に、個別にアンケートを実施した。

このアンケートの目的は、対象を演習や課外活動、共同研究に参画した学生を特定してデータを収集することにある。

【統一指標アンケート：初年度と2年目の比較】

- 回収率：40.8%から49.7%へ増加、およそ半分の学生から回収できている
- 「COCに対する認知度」、「地域指向科目の履修率」、「地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力の習熟」に関していずれも増加傾向を示している。なかでも「地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力の習熟」に関する質問については、初年度と2年目の比較において顕著な増加を示している。

質問文：「前出の科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか」



「地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力の習熟」について

【年度末実施アンケート】

COCプロジェクト参加教員にあらかじめ対象となる学生を抽出いただき、COCの活動を通して自分自身の成長の度合いを質問した。次の5項目に対して、それぞれ実現できている度合いに対して5段階で回答を求めた。

1. COC活動への積極的参加、
2. 知識の習得度合、
3. 課題解決能力の向上、
4. コミュニケーション能力(プレゼン能力)の向上、
5. 履修後・参加後の地域貢献への意欲の向上

254名からアンケートを回収したところ、それぞれの項目に対して、できていると実感している学生が7割以上であった。

COCのプロジェクトに参加した学生は、自己の学びや将来設計について考えるようになっており、本プロジェクトの教育効果は、十分な成果を出していると言える。

